

中期目標の達成状況に関する評価結果

信州大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	5
《本文》	7
《判定結果一覧表》	15

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、優れた教育研究を行うことによって、大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。

この理念のもとに、全学の構成員が新たな可能性に挑戦するための将来構想「信州大学ビジョン2015」を策定した。

本学は、この将来構想に基づき、信州の歴史と立地条件を活かした個性豊かな学部が協働し、総合力と相乗効果を発揮させ、世界へ飛翔する「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」の構築を目指し、第二期中期目標期間中において、以下の事柄に重点を置いて取り組む。

（1）未来の社会を展望した有為な人材教育の実践

学生の視点に立ち、高度専門職業人としての専門的知力の修得を支援するとともに、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成する。

（2）地域に根ざし世界に拓く研究拠点の形成

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を広く提供することにより、地域と世界に貢献する。

（3）豊かな地域社会の創造に向けての協働と貢献

信州にある唯一の総合大学として、県内全域に向けた教育・文化の拠点づくりや地域の産業振興、まちづくりなどに積極的に関わっていく。

（4）社会環境の変化に柔軟に対応する大学経営の推進

学長のリーダーシップのもと、社会環境の変化に柔軟に対応する自立的な大学経営を推進する。

1. 理念

信州大学は、

信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、

その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、

世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、

自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、

その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

2. 目標

信州大学は、

その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

教育

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

研究

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

地域貢献

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

国際交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

[個性の伸長に向けた取組]

第2期中期目標期間において、「カーボン」、「環境・エネルギー材料」、「繊維・ファイバー工学」、「山岳科学」、「バイオメディカル」の強みを持つ分野からなる「先鋭領域融合研究群」を設置し、分野を横断し有機的に融合した研究を実施した。各研究所の設置にあたり、学長のリーダーシップにより先鋭領域融合研究群へ運営費を重点的に配分した。

(関連する中期計画) 計画2-2-1-1
計画2-2-1-2

また、優れた若手教員を育成する「**Rising Star** 教員制度」を導入するとともに、海外機関の著名な外国人研究者や研究ユニットを招へいた。

(関連する中期計画) 計画2-1-3-3
計画2-2-1-4

これにより学系や分野を越えた協働体制を構築し、世界水準の国際教育研究拠点を形成するとともに、各研究所の先端的な研究成果を反映した改組等教育体制の整備、学科・専攻横断的な教育プログラムの実施に向けた整備を行った。

(関連する中期計画) 計画1-1-6-2
計画2-1-2-1
計画2-1-3-1
計画2-1-3-2
計画3-2-1-2

さらに、教員人事の流動性を確保し、戦略的な人事、全学的研究マネジメントを可能とし、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディに対応した教育を推進するため、教育組織と教員組織を分離し、3学域10学系からなる「学術研究院」を設置した。

(関連する中期計画) 計画1-2-2-1
計画1-2-2-2

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

○被災地への医療チーム派遣

平成23年3月の東日本大震災発生後、直ちに医学部附属病院災害派遣医療チーム「DMAT (Disaster Medical Assistance Team)」を派遣し、医療活動を実施するとともに、福島原子力発電所の事故を受け、放射線測定医チームを派遣した。また、長野県との連携により医療救護班、心のケアチームを継続して現地へ派遣し、医療活動を行った。

○被災学生に対する入学料免除・徴収猶予

東日本大震災により被災した学生を対象に、入学料免除・徴収猶予による支援措置を行った。

○義援金・見舞金の募金

募金活動を行い、日本赤十字社等への義援金とするとともに、実家等に被害があった本学在学生の見舞金とした。

○使用電力の削減

東日本大震災等の発生、原子力発電所の運転停止等に伴う電力の供給不足に対応するため、平成23年度は、医学部附属病院を除く全キャンパスにおいて使用電力を削減することを目標に掲げ、こまめな電源のオン・オフ、冷暖房の設定温度の徹底等の節電対策に取り組んだ。その結果、使用電力を平成22年度比で3.24%削減した。

○防災・減災に係る教育研究の実施と地域防災減災センターの設置

本学において地域の防災・減災に係る教育研究を行うとともに、災害の発生メカニズム等に関する研究成果等を活用して、地域連携による地域の防災・減災に資することを目的とした「信州大学地域防災減災センター」を平成27年度に設置した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、信州大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	5	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			1	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		3		
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	おおむね良好			1	
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			3	
③ 国際化に関する目標	良好		1		

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- カーボン科学研究所では、「エキゾチック・ナノカーボンの創成と応用」プロジェクトや「ナノカーボンを利用したスマートデバイスの研究開発」等の研究プロジェクトを実施しており、科学技術政策研究所の大学ベンチマーキング 2011 において、複合材料カテゴリで 50 位となっている。また、抄録・引用文献データベースに基づく 15 の成果項目の総数である Scholarly Output は、カーボンナノチューブ研究エリアにおいて 1 位であり、その成果数は 196 と 2 位の 4 倍以上の成果数となっている。（中期計画 2-1-3-1）
- 国内外の研究機関と共同研究、受託研究を実施しており、共同研究の件数は平成 21 年度の 294 件から平成 27 年度の 480 件へ、金額は約 3 億 3,800 万円から約 6 億 7,700 万円へ増加している。受託研究の件数は平成 21 年度の 162 件から平成 27 年度の 239 件へ、金額は約 12 億 1,800 万円から約 18 億 4,600 万円へ増加している。抄録・引用文献データベースに基づく相対被引用インパクトでは、世界平均を上回っている。
（中期計画 2-1-3-3）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 被災地への医療チーム派遣
平成 23 年 3 月の東日本大震災発生後、直ちに医学部附属病院災害派遣医療チーム「DMAT (Disaster Medical Assistance Team)」を派遣し、医療活動を実施するとともに、福島原子力発電所の事故を受け、放射線測定医チームを派遣した。また、長野県との連携により医療救護班、心のケアチームを継続して現地へ派遣し、医療活動を行った。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(6項目)のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した5項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○学生のグローバルな情報発信能力の向上への取組

中期目標(小項目)「高度専門人材育成のための教育を推進する。」について、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラム「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダー養成」に加えて、学内版リーディングプログラム「サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム」による教育コースを設置するなど、学生のグローバルな情報発信能力を高めるための教育活動に取り組んでいる。(中期計画 1-1-4-1)

○学科・専攻横断の教育プログラム実施に向けた取組

中期目標(小項目)「時代の変化を見据えつつ、教育課程を不断に見直す。」について、大学の強みや特色のある5つの研究領域を集約した先鋭領域融合研究群を設置し、当該研究群と連携した学科・専攻横断の教育プログラムの実施に向けた制度設計・構築を行っており、特別招へい教授による講演や、研究群に密接に関連する研究所の研究成果をより直接的に学生教育に反映させるような教育体制の整備に取り組んでいる。(中期計画 1-1-6-2)

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○県内外の大学との連携事業の実施

中期目標(小項目)「教育実施体制を整備充実する。」について、理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー(CST))養成拠点構築事業の取組や、サステイナブルエネルギーグローバル人材養成プログラムの設置等、学部・研究科を超えた連携のもと、様々な取組を行っている。また、高等教育コンソーシアム信州の設立や、医学系研究科及び理工学系研究科の大学間連携共同教育推進事業の実施等、県内外の複数の大学と連携事業を実施している。(中期計画 1-2-2-2)

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○学生支援策の充実

中期目標(小項目)「学生の視点に立った総合的な支援を行う。」について、学生支援の充実のため、入学予定者及び保護者を対象として、大学生協とタイアップした学生生活に関する総合的な説明会を実施している。入学後は、全学部1年次生を対象とした共通教育教養科目「キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」を開講し、それと連動してキャリア形成支援オプション型ワークショップを取り入れ、キャリア教育の充実を図るなど、入学前から卒業後までを視野に入れた各種学生支援策が充実している。(中期計画 1-3-1-1)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した3項目のうち2項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された4計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○複合材料分野における研究の推進

中期目標(小項目)「世界的な研究拠点を整備充実し、当該分野における研究水準の維持・向上を図る。」について、カーボン科学研究所では、「エキゾチック・ナノカーボンの創成と応用」プロジェクトや「ナノカーボンを利用したスマートデバイスの研究開発」等の研究プロジェクトを実施しており、科学技術政策研究所の大学ベンチマーキング 2011 において、複合材料カテゴリで 50 位となっている。また、抄録・引用文献データベースに基づく 15 の成果項目の総数である Scholarly Output は、カーボンナノチューブ研究エリアにおいて 1 位であり、その成果数は 196 と 2 位の 4 倍以上の成果数となっている。(中期計画 2-1-3-1)

○国内外の研究機関との共同研究、受託研究の推進

中期目標(小項目)「世界的な研究拠点を整備充実し、当該分野における研究水準の維持・向上を図る。」について、国内外の研究機関と共同研究、受託研究を実施しており、共同研究の件数は平成 21 年度の 294 件から平成 27 年度の 480 件へ、金額は約 3 億 3,800 万円から約 6 億 7,700 万円へ増加している。受託研究の件数は平成 21 年度の 162 件から平成 27 年度の 239 件へ、金額は約 12 億 1,800 万円から約 18 億 4,600 万円へ増加している。抄録・引用文献データベースに基づく相対被引用インパクトでは、世界平均を上回っている。(中期計画 2-1-3-3)

(特色ある点)

○研究支援制度の充実

中期目標（小項目）「教員の自由な発想に基づく研究を推進する。」について、研究力強化支援事業や、ステップアップ加算支援制度、申請書作成アドバイザー制度、初心者向け申請書書き方講座等、各種研究支援のための制度の充実を図っている。また、研究成果として、論文データベースにおいて被引用数が上位1%に入る論文が理学、医学、工学等の多様な研究分野において表れている。

(中期計画 2-1-1-1)

○5つの重点領域研究の推進

中期目標（小項目）「中長期的視野に立った重点研究領域を設定し、高度で特色ある研究を推進する。」について、各重点研究領域の推進とグローバル研究拠点の形成に向けて、5つの重点研究領域において研究を推進するとともに、平成25年度には先鋭領域融合研究群のうち、環境・エネルギー材料科学研究所、山岳科学研究所、バイオメディカル研究所の3研究所に重点研究領域を集約している。このうち、バイオメディカル研究所では、インターバル速歩の長期間の継続効果を検証し、その有効性とトレーニングの継続に影響する因子（性別・肥満）を明らかにするなどの成果がある。（中期計画 2-1-2-1）

○ナノテク高機能ファイバーにおける技術開発

中期目標（小項目）「世界的な研究拠点を整備充実し、当該分野における研究水準の維持・向上を図る。」について、文部科学省のグローバルCOEプログラムの国際ファイバー工学教育研究拠点において、地域イノベーションクラスタープログラム「有機無機ナノマテリアルを利用したスマートデバイスの研究開発」プロジェクトを実施し、ナノテク高機能ファイバーにおける技術開発等を行っている。（中期計画 2-1-3-2）

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>**(特色ある点)**

○先鋭領域融合研究群への研究費の重点的配分

中期目標(小項目)「中長期的視野に立ち、研究環境を組織的に整備する。」について、学長裁量経費及び先鋭領域融合研究群創設整備事業や大学改革強化推進経費により、先鋭領域融合研究群を中心とした重点研究領域への重点的配分を行っており、重点研究領域の研究を推進している。(中期計画 2-2-1-2)

○産学官連携のコーディネーション機能の充実

中期目標(小項目)「産学官連携による研究推進と研究成果の知的財産化に基づいた「知的創造サイクル」システムを構築する。」について、コーディネーターによる産学官連携に関する研究会等の企画・実施や、信州大学連携コーディネーター研修の実施、産学官連携推進本部の組織改編及びコーディネーター等連絡会議の開催等、産学官連携のコーディネーション機能の充実を図ることにより、受託研究及び共同研究の件数・受入金額が増加し、平成26年度の共同研究件数は、大学等における産学連携等実施状況調査において全国11位となっている。

(中期計画 2-2-2-3)

○リサーチ・アドミニストレーターの人材育成

中期目標(小項目)「産学官連携による研究推進と研究成果の知的財産化に基づいた「知的創造サイクル」システムを構築する。」について、リサーチ・アドミニストレーターの人材育成方針及び育成計画を策定して専門人材の育成に努めており、文部科学省のリサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)に採択され、中間評価でA+となっている。(中期計画 2-2-2-4)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○地域の課題解決、地域振興、地域人材育成への取組

中期目標(小項目)「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成26年度から地域対話ワークショップを実施し、その成果を踏まえ、地域の人材育成のための課題解決人材育成カリキュラムを使った地域戦略プロフェッショナル・ゼミを開講するなど、地域の課題解決と地域振興、地域人材育成に向けた取組を進めている。(中期計画 3-1-1-1)

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域貢献への取組の推進

中期目標(小項目)「産学官連携を深化・発展させることにより、地域振興に寄与するとともに、広く社会の産業振興に資する。」について、長野県内19の大学・短期大学・高等専門学校が参加する信州産学官連携機構の基幹校となり、新技術説明会や信州大学見本市を開催するなど地域貢献に積極的に取り組み、平成27年度の金融連携コーディネータ制度による委嘱者は308名、平成26年度の企業・自治体等との共同研究・受託研究数は973件、公開講座等の年間提供数は1,123件になっている。(中期計画3-2-1-1)

(特色ある点)

○免許状更新講習の実施

中期目標(小項目)「地域に根ざした研究と人材育成を実施し、地域振興に貢献する。」について、小中学校教員を対象にした免許状更新講習や、専門学部が開設する講習、在職10年目の教諭・養護教諭を対象とした10年経験者研修等を実施しており、受講者は毎年度4,000名を超えている。(中期計画3-2-2-2)

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○海外派遣の推進

中期目標(小項目)「グローバル社会のもとでの教育研究活動展開のため、海外との知的・人的交流を充実させる。」について、英語による教育コースを持つ

協定校の開拓を進め、平成 27 年度までに 87 校と協定を締結して相互交流を活発化している。また、超短期・短期プログラムによる学生派遣を強化し、日本人の派遣学生数は平成 21 年度の 18 名から平成 27 年度の 264 名へ増加している。

(中期計画 3-3-1-1)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
人類の知と文化創造の歴史に関する理解を深め、それを自らの力とする教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-1-1	学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「人類知の継承」を図り、「科学的・学問的思考」を修得するための教育課程を整備する。	おおむね良好	
社会人としての基礎的・実践的能力を涵養する体系的な教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-2-1	学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「豊かな人間性」を涵養し、「社会人としての基礎力」を修得するための教育課程を整備する。	おおむね良好	
信州の自然、地域の特色を活かした環境マインド教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-3-1	学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「環境基礎力」及び「環境実践力」を修得するための教育課程を整備する。	おおむね良好	
1-1-3-2	信州の自然、歴史、文化を素材とした教育やフィールド学習を推進する。	おおむね良好	
高度専門人材育成のための教育を推進する。		良好	
1-1-4-1	学位授与の方針に基づき、各研究科においてそれぞれの専門領域に加え、情報収集・分析能力、グローバルな情報発信能力を高めるための教育課程を整備する。	良好	特色ある点
成績評価の厳格化を通じて教育の「質」を保証する。		おおむね良好	
1-1-5-1	学士課程において成績評価分布の公表により成績評価の厳格化を進めるとともに、その上でGPA制度等の活用を図る。	おおむね良好	
1-1-5-2	修士課程及び博士課程の修了審査体制を充実させ、審査の厳格化を図る。	おおむね良好	
時代の変化を見据えつつ、教育課程を不断に見直す。		おおむね良好	
1-1-6-1	学内外からの意見を踏まえ、教育課程を不断に見直すための体制を充実させる。	おおむね良好	
○ 1-1-6-2	先鋭領域融合研究群の研究成果を反映した教育体制の整備、学科横断の教育プログラムの実施に向けた制度設計・構築を行う。	おおむね良好	特色ある点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
入学者受入方針に即し、多面的な評価を重視しつつ、学生の受入れを行う。		おおむね良好	
1-2-1-1	アドミッションセンターの機能強化を図りつつ、学位授与方針に対応した入学者受入方針に沿った適切な入試を実施する。	おおむね良好	
1-2-1-2	入学希望者及び社会に対して、大学、学部、研究科の魅力を明示し、発信する。	おおむね良好	
教育実施体制を整備充実する。		良好	
1-2-2-1	本学の果たすべき教育機能を強化するため、教育実施体制について検証を行い、これを踏まえた見直しを行う。	おおむね良好	
1-2-2-2	大学としての教育力を向上させるために学部を越えた連携を進めるとともに、県内外の大学との連携を推進する。	良好	特色ある点
1-2-2-3	大学教員の教育に関する資質・能力を高める研修プログラムを実施する。	良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学生の視点に立った総合的な支援を行う。		おおむね良好	
1-3-1-1	学生支援体制のあり方を見直すとともに、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。	おおむね良好	特色ある点
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
教員の自由な発想に基づく研究を推進する。		良好	
2-1-1-1	科学研究費補助金等の研究資金により、多様な研究成果を生み出し、基礎研究の基盤を充実させる。	良好	特色ある点
中長期的視野に立った重点研究領域を設定し、高度で特色ある研究を推進する。		良好	
○ 2-1-2-1	以下の領域において特色ある研究を、先鋭領域融合研究群を中心に組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。 (1) 環境調和型システムの研究領域 (2) 包括的予防医学の研究領域 (3) 先端医療推進に関する研究領域 (4) 地域生物資源の利活用（機能的食品開発等）に関する研究領域 (5) 山岳科学の研究領域	良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	世界的な研究拠点を整備充実し、当該分野における研究水準の維持・向上を図る。	良好	
○	2-1-3-1 先鋭領域融合研究群カーボン科学研究所において先端的な研究プロジェクトを実施し、世界的な研究拠点の維持・発展につなげる。	良好	優れた点
○	2-1-3-2 先鋭領域融合研究群国際ファイバー工学研究所において先端的な研究プロジェクトを実施し、世界的な研究拠点の維持・発展につなげる。	おおむね良好	特色ある点
○	2-1-3-3 先鋭領域融合研究群を中心に国内外の研究機関との共同研究や国際研究集会の開催などを行うとともに、著名な外国人研究者（マサチューセッツ工科大学など）、研究ユニット（ゲルフ大学など）の招へいを通じて、世界的な研究拠点の維持・発展につなげる。	良好	優れた点
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
中長期的視野に立ち、研究環境を組織的に整備する。		おおむね良好	
○	2-2-1-1 全学的な研究推進戦略の見直しを行う。	良好	
	2-2-1-2 先鋭領域融合研究群を中心とした重点研究領域の研究を推進するため、必要な研究経費を重点配分する	おおむね良好	特色ある点
	2-2-1-3 学内特区制度を整備・活用し、研究実施体制の充実を図る。	おおむね良好	
	2-2-1-4 優秀な若手研究者が研究に専念できる環境を整備する。	おおむね良好	
	2-2-1-5 全学にわたる設備整備方針を定めた「設備整備マスタープラン」を見直し、同プランに沿って研究設備の整備充実を図る。	おおむね良好	
	2-2-1-6 Webサイトによる研究者個々の研究情報提供システムの維持・充実を図るとともに、論文等の被引用やダウンロード情報を分析し、研究推進に役立てる。	良好	
産学官連携による研究推進と研究成果の知的財産化に基づいた「知的創造サイクル」システムを構築する。		良好	
	2-2-2-1 多様な知的財産の発掘、知的財産化、技術移転を推進する。	良好	
	2-2-2-2 産業界の研究者を受け入れる産学協働の場を学内に整備し、産学共同研究を推進する。	良好	
	2-2-2-3 企業や自治体関係者が研究シーズや技術シーズの検索を通じて研究者個々の研究情報にアクセスできるシステムを構築し、広く研究情報を発信するとともに、産学官連携のコーディネーション機能を充実させる。	良好	特色ある点
	2-2-2-4 産学官連携及び知的財産に係る専門人材を育成する。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		おおむね良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		おおむね良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム・教育組織の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	おおむね良好	特色ある点
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
産学官連携を深化・発展させることにより、地域振興に寄与するとともに、広く社会の産業振興に資する。		おおむね良好	
3-2-1-1	本学が長野県内の高等教育機関の基幹校となっている「信州産学官連携機構」を中心に、地域振興に寄与するプロジェクトを推進する。	良好	優れた点
3-2-1-2	イノベーションの創出等により産業振興に寄与するため、広域的、国際的産学官連携を推進する。	おおむね良好	
地域に根ざした研究と人材育成を実施し、地域振興に貢献する。		おおむね良好	
3-2-2-1	地域の諸課題に取り組む調査研究を推進する。	良好	
3-2-2-2	地域社会及び産業界の要請に柔軟に対応するため、大学院研究科を中心に社会人教育を充実させる。	おおむね良好	特色ある点
生涯学習の支援と社会人再教育を推進する。		おおむね良好	
3-2-3-1	県内自治体、教育機関等と連携し、多様な社会的ニーズに応える生涯学習プログラムを作成・実施する。	おおむね良好	
③ 国際化に関する目標		良好	
グローバル社会のもとでの教育研究活動展開のため、海外との知的・人的交流を充実させる。		良好	
3-3-1-1	全学にわたる国際化の基本戦略を取りまとめた「国際化推進プラン」を踏まえ、知的・人的交流充実のための体制を整備する。	良好	特色ある点

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>「繊維・ファイバー工学」等の強みを持つ分野からなる「先鋭領域融合研究群」を中心に、分野を横断し有機的に融合した研究の実施や優れた若手教員を育成するシステムの導入、海外機関の著名な外国人研究者や研究ユニットの招へい等により学系や分野を越えた協働体制を構築することで、世界水準の国際教育研究拠点を形成するとともに、高度研究力と国際的实践力を持つ理工系グローバル人材を育成する計画を進めている。学長裁量経費等による先鋭領域融合研究群を中心とした重点研究領域への重点的配分や、当該研究群における著名な外国人研究者及び研究ユニットの招へいを行っているほか、当該研究群と連携した学科・専攻横断の教育プログラムの実施体制の整備を進めている。</p>
-----	--